

一日も早く道路拡幅、歩道整備、防雪柵設置を

県道新井柿崎線整備促進議員連盟が県土木部長に要請

県道新井柿崎線整備促進議員連盟（会長は10月26日、県庁において中田一男県土木部長と会い、同線の道路・橋梁、歩道整備の促進、雪害関係施設整備の促進などを要請しました。

要請の中で議員連盟のメンバーは、「国道405号線から柿崎にかけては風が強い。中田部長など土木部担当者は、大湊区内雁子から柿崎区江島までの防雪柵設置は完了までもう3年ほどかかること、青野地区で国の交付金を活用して道路拡幅が進んでいること、三和区下中地区内の道路改良は用地買収が終ったところから工事を進めていくことなどを明らかにしました。

要望全体について中田部長は「新井柿崎線は延長が長くて、へみなさんの要望に予算がついていかないが、へそういつたところは少し待っていただきたい」とのべていました。

今回の要望箇所は14か所。この中には小学校



の通学路に指定されているものの、歩道整備などが進んでいないところが何か所もあり、まず、危ないところは最優先でお願いしたいものです。

以下は今回の主な要望事項と要望箇所です。★は通学路

- ④ 側溝設置
板倉区熊川★
- ④ 歩道整備
板倉区下長領、下四ツ屋、三和区沖柳★、頸城区手島、日根津★、柿崎区馬正面★
- ④ 防雪柵設置
下曽根、野尻、高和町★、三和区川浦、下中、本郷、三和区沖柳、青野、頸城区両増田★、大湊区米倉新田、吉川区坪野内、大湊区内雁子、吉川区長峰★
- ④ 道路拡幅
稲谷、下曽根、高和町★、青野、頸城区森本★
- ④ 道路改良
三和区下中
- ④ 交差点改良
頸城区上増田★
- ④ 橋梁幅員拡充
中江橋（板倉区）、高和橋（三和区・他）、沖柳橋（三和区）



【イヌガラシ】アブラナ科の多年草。漢字で「犬芥子」と書きます。普通、春に見られる花。農道でいま咲いていました。踏まれても踏まれても咲く花。花言葉は、「平凡の非凡」「恋の邪魔者」。10月24日、吉川区代石にて撮影。

スーパーティーチャーの公開授業

スーパーティーチャーによる数学の公開授業を30日、初めて見てきました。会場は城東中学校3年2組の教室。スーパーティーチャーとは専門的力があって、わかりやすい授業を推進・指導できると市教委が認めた教師を言います。今回はY先生（吉川区出身）による関数の授業です。長方形と台形を使った授業展開、グループ学習の導入など興味深く見せてもらいました。



Y先生のきりりとした表情、生徒とのやりとりで見せた笑顔が印象に残りました。数学が苦手の私には、とっても勉強になる授業でした。



【ませわら】

急に寒くなってきました。先日、山間部で「ませわら作り」をしている人に出会いました。「ませわら」は家の土台のところに風が入らないようにと、わらを隙間に挟み、家の中を少しでも暖かくしようとするものです。生活の知恵ですね。

はしづめ法一の活動レポート

No.1882 2018.11.4

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見え方」はこちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第五三〇回

小さな穴

もう半年で父が他界して一〇年になります。申し訳ないことに一年に何回も思い出すことがないのですが、先日、夜、コタツ掛けのことから急に父の話になりました。

夕飯を食べ終わって、ゆったりした時間帯でした。コタツの南側にいた家族の者がコタツ掛けの一角に小さな穴を見つけ、「これはじいちゃんがあけた穴だ」と言ったのです。

確かに父が生きていた頃には、タバコの火を落として、穴をあけてしまったことがあったような記憶があります。でも、その当時の穴がいまだに残っているとは……。

そばまで行って見ると、確かに直径三ミリほどの小さな穴がありました。それも三か所です。穴の縁の焦げた様子から見て、明らかにタバコの火によるものでした。

わが家のコタツ掛けは、少なくとも十数年使っています。そう考えれば、穴が残っていても不思議はないのですが、父が座っていた北側にその穴があって、まだ見ることができるといのはちょっとびっくりらしいことでした。

コタツ掛けには花の絵とともに紫、薄紫、白の三色を使ったチェック模様が入っています。コタツ掛けは正方形ですし、模様も、どこから見ても基本的には同じく見えます。それだけに、通常、どこをどの位置にするかを定めることはしません。今回はたまたま、いままで北側であったところが南側になったというコトが……。

それでも、このコタツ掛けの小さな穴は父を思い出さずにはいけません。

「おらじいちゃん、タバコだけや、やめらんねかったわな」そう言って、父の話を始めたのは母です。

顔を上向きにして、母は続けました。「おらじいちゃん、いつか『もりよし』(近

くの電気屋さん)のじいちゃん、山直海のデイサービスに行ってなったもんだけど、『もりよし』のじいちゃん、よくおうちに迎えに来たがど。そんなときも、『タバコ持ったかい』そう言わんで支度してなったがど……」

父が山直海のデイサービスに通っていたことも、近くのデイサービス、「あじさいの家」に通っていたことも私は見てはいたのですが、要介護状態になって、施設に行くようになってからもタバコを持参していたというのは初めて知りました。

施設で吸うことができたかどうかは疑問ですが、タバコを持参した可能性は十分あります。というのは、病院に入院している、話ができなくなってからも、タバコを吸いたがりました。口をもごもごしていたときに、「何、言いたいのだね」と繰り返し尋ねたところ、父は「タバコ」とでっかい声で叫んだことがありました。父がしゃべった言葉はこれが最後でした。

母は父がタバコの火の粉を落としたりと、あわてて火を消す父の姿も鮮明に憶えています。落ちた瞬間に気づき、手で消していたというのです。救急車で病院に運ばれた当時ならば、動きが相当のろくなっていましたから、こんな機敏な対応を父がするわけがありません。小さな穴をあけたのは、入院よりもかなり前だったのではうね。

父のタバコについての話を母から聞いて、私はコタツ掛けの小さな穴を再び見てみました。そして、穴のひとつから母を見てみました。その様子を見た母がまた私に声をかけてきました。

「とちゃん、おまん、チョウチ(地名)のナシの木、知っているだろ……」
母の昔話がまた始まりました。

下黒川小の地域文化展、今年も賑わう

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

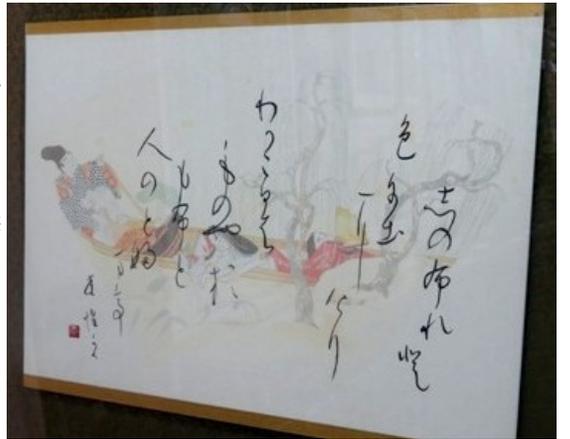
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月24日(水)	10月31日(水)
上越南消防署	0.047	0.057
上越北消防署	0.053	0.057
新井消防署	0.047	0.050
頸北消防署	0.043	0.040
頸南消防署	0.050	0.060
東頸消防署	0.040	0.050
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.053	0.057

柿崎区・下黒川小学校の文化祭に合わせて行われている地域文化展、今年も賑わいました。

この文化展は地元の柿崎区だけでなく大湊区や吉川区などの作者の作品も展示されているのが特徴のひとつのいい取り組みです。

会場では、直海次の藤沢さんの夕陽の絵、上直海の酒井さんの男ゼンマイの写真、江島の宮川さんの染め物、川田の日本さんの書(上の写真)などたくさんの素敵な作品と出会うことができました。



うれしかった棚田などの身近な風景

大島画廊で開催されていた吉川区在住の渡辺幸雄さんの個展を28日、観てきました。

会場には飯田の玄蕃さんなど知っている女性が数人いて、作品を観る前におしゃべりを楽しましました。この中には10年近く会っていない人もいました。

展示されている作品の多くは尾神岳や米山、妙高山、山間地の棚田など知っている風景です。尾神の棚田など身近な風景が作品になっていると、やはりうれしいですね。

